

今、日本で、世界で、起こっていること

東北福祉大学特任教授 有田 和正

●子どもがマンモスの化石発見●

ロシアの東シベリア北部・タイミル半島の西側、ソボチナヤ・カルガ岬で、約3万年前に死んだとみられるマンモスの死骸が発見された。保存状態はととてもよく、専門家は「世紀の発見」といっている。

このマンモスを発見したのは、地元に住んでいる「エフゲニー・サリンデル君（11歳）」。子どもが「世紀の大発見」をしたのである。どうやって発見したのだろうか？ エフゲニー・サリンデル君は、タイミル半島の「ソボチナヤ・カルガ岬」を2012年8月中旬に散歩していたところ、「くさい臭い」に気づき、何だろう、おかしいなとさがしまわったところ、土手から突き出た骨の一部などを見つけたという。

専門家が調べたところ、骨は15～16歳で死んだ雄のマンモスのものとわかった。体長約3mとみられ、キバや皮膚、皮下脂肪のほか、脳の一部も残っていたのだ。このマンモスは、発見者のエフゲニー君の愛称にちなみ、「ジエーニャ」と名づけられた。保存状態がこれほどよい成獣のマンモスの死骸がみつ

かったのは、1901年以来。発見された現場は北極海に流れ込むエニセイ川河口の近くだ。永久凍土が広がるツンドラ地帯である（ツンドラ：夏の間だけ、表面がとけてこけ類が生育するが、1年の大部分は凍っている土地である。シベリアやカナダの北極海沿岸地域）。シベリアでは、2007年5月には、約1万年前に死んだとみられる生後約1年ほどの子どものマンモスも凍結状態で発見された。



↑ ●マンモスの発見場所（ソボチナヤ・カルガ岬）と永久凍土の南限を確認する
帝国書院『中学校社会科地図』
p.50ロシア連邦とまわりの国々の資料図 ②1月の気温

↑ ●マンモスの発見場所は、ホッキョクグマのイラストあたりになる
『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.53
①アジア・オセアニア

●ロンドンオリンピックの安全・安心を支えた日本の人材育成力と技術●

2012年7月27日から17日間ロンドンオリンピックが行われ、日本は38個の金・銀・銅のメダルを取得した。8月20日には、日本で初めて銀座でパレードも行われ、50万もの人がオリンピック選手を見るために集まった。

イギリスでは、北アイルランドの民族・宗教紛争によるテロ行為が何度となくおこってきた。しかし、今回のオリンピック期間中は何もおこらずに済んだ。それは、イギリスに子会社をもつ日本のセコムが、数百の優秀な人を雇用し訓練して、警備にあたったからだといわれている。首都ロンドンは、もともと防犯への関心は高く、監視カメラや警報機は多く設置されている。ただメンテナンスは不十分で、トラブルが多かったという。セコムは、これらを設置から保守・点検まで一括で行うことでトラブルを減らしていき、次々に大きな仕事を受注していった。ロンドン警視庁関連施設や、ヒースロー空港（国際空港）やおもな競技場、地下鉄、盛り場など、人が多く集まりテロのおこりそうな場所をセコムが警備した。日本のセコムは、世界で実力を証明したことになる。

●上の記事

ロンドンオリンピックは、ロンドン市内のほか、イギリス国内30か所の会場で行われた

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』p.59 ①ヨーロッパ



●下の記事

ノーベル賞の授賞式は、毎年ノーベルの命日である12月10日に、「平和賞」を除く5部門はストックホルム（スウェーデン）のコンサートホール、「平和賞」はオスロ（ノルウェー）の市庁舎で行われる

●山中伸弥教授ノーベル生理学・医学賞●

2012年10月、京都大学の山中伸弥教授が日本人として19人目のノーベル賞を受賞のニュースに、日本中がわいた。生理学・医学賞としては日本で2人目である。iPS細胞を開発し、世界医学界に新しい医療の可能性を示した。2006年、「マウスの皮膚の細胞に四つの遺伝子を入れると、体のどんな細胞にも変化させられる多能性幹細胞に変わる」と山中教授は発表し、「iPS細胞」と命名した。2007年には、人間の皮膚細胞からiPS細胞をつくりだした。この開発は、新薬の開発や、難病の原因解明などにも役立つという。患者のiPS細胞をつくることで薬の効き目や副作用をあらかじめ調べることもできるらしい。とにかく画期的な発明である。

しかし、山中教授は「まだ、ただの一人の患者も救っていない。すべてはこれからだ」と謙虚に話している。早く具体的な成果をあげられるよう、文部科学省もこれから研究補助を積極的にするといっている。こんな研究こそ十分な環境が整うことを願わずにはられない。

なお、生理学・医学賞の授賞式は、12月10日、スウェーデンのストックホルムで行われた。